

ワインを核とした地域活性化ビジョン 2023

1-(1) 趣旨

近年、国内で栽培されたぶどうのみを使用して国内で醸造される「日本ワイン」の需要が高まっており、北海道内で醸造用ぶどうの生産やワイナリーの建設が盛んに行われています。

本市でも、秋が長い冷涼な気候やぶどう生産に適した土壌、山間地に南向きの斜面が多いといった地域の特徴を活かした醸造用ぶどうの生産や、地域に根差した独自色のあるワインを醸造し、全国各地に根強いファンも多いワイナリーが稼働し始めています。

本ビジョンは、本市の基幹産業である農業・漁業といった第一次産業や、北海道新幹線延伸を見据えた観光業との親和性が高いワインを核として、地域活性化の取組を推進する方向性(ビジョン)を生産者や関係団体、さらには市民の皆様と共有するものです。

1-(2) ビジョンの位置づけ及び推進体制

本ビジョンは、総合計画をはじめとする各種計画との整合性を図りつつ、本市のワイン振興を通じた地域活性化を実現するための方向性と主な施策について示すものです。

内容については、ワイン生産者や関係団体で構成されるワインによる地域活性化検討会議において協議し、ビジョンの実現に向け現状や課題を検証の上、毎年度必要な見直しを行います。

1-(3) SDGsとの関連

本ビジョンは、本市のまちづくりの基本方針である「SDGsによるまちづくり」の理念に基づき、ワインを核とした地域活性化の取り組みを通じて包摂的かつ持続可能なまちづくりに資するものです。

2 ビジョンを構成する3つの柱

柱① 北斗産ワインのブランド化	主な施策
<p>良質なワインの生産体制を構築していくほか、地域の優位性を活かしたブランド化を目指します。</p> <p>また、良質なワインを生産する適地であるという市民意識の醸成や市内外への情報発信を通じ、北斗産ワイン(北斗市で生産されたぶどうを使用したワイン)のファン増加につながる取組を行います。</p>	A 市民意識の醸成
	B 全国への情報発信
	C 生産体制の確立・支援
柱② ワインを通じた交流人口の拡大	主な施策
<p>ワインに関連した観光商品の開発やイベントの開催を通じ、地域住民や生産者といった市内外の多様な主体との連携を図るとともに、観光客を呼び込むことで交流人口の拡大を目指します。</p>	A 観光振興
	B イベント開催
柱③ 地域経済への波及効果促進	主な施策
<p>ワインに合う料理など関連商品の開発や、北斗産ワインの市内取扱い店舗を増やすための環境づくり、ふるさと納税の返礼品としての活用など、地域経済へ波及させる取組を行います。</p>	A ワイン消費の促進
	B 関連商品の開発
	C ふるさと納税への活用

3 主要施策

柱① 北斗産ワインのブランド化

A 市民意識の醸成

- 広報ほくとを通じた市民周知
 - ・ワイン生産について、市民の理解が深まるような特集記事を掲載。
 - ・北斗市でワイン生産が行われる背景や生産者の思いについて、市民に周知する。
- 市民向けワイン勉強会の開催
 - ・市政スクールによる見学や、生涯学習講座を活用した勉強会を開催する。
 - ・市民にワインや醸造用ぶどうの知識について学ぶ機会を提供する。
- 教育現場への情報提供
 - ・学校教育の現場で、北斗市がワイン産地である背景について学習する機会を提供する。
 - ・社会科副読本に、醸造用ぶどうについての記述を新たに追加する
- ワイン産地であることの表示
 - ・来訪者にワイン生産の適地だと伝わるような表示物(看板など)を設置する。
 - ・表示物を設置することで、視覚的に認知度を高める。
- 市有地での醸造用ぶどうの試験栽培・収穫体験の実施検討
 - ・市有地で醸造用ぶどう試験栽培が可能か検証する。

期待される効果

- 市民がワインの知識や収穫作業に親しみ、ワインへの興味を深めてもらうことで、良質なワイン生産に適しているという認知度が向上する。
- ワイン収穫作業への市民参加など、市民と生産者との協力体制が構築される。

B 全国への情報発信

- 市ホームページにワイン特設ページの開設
 - ・市内のワイン生産者の紹介、ワイン産地としての特徴や北斗産ワインが提供されている飲食店情報などを掲載する。
- PR 素材の製作や広告掲載
 - ・北斗産ワインの魅力を PR するチラシやリーフレットを製作する。
 - ・訴求力の高い PR の実施方法の検討を行う。

期待される効果

- 北斗産ワインの魅力や可能性を市内外に発信する。
- 北斗産ワインのファンが増加する。

C 生産体制の確立・支援

- 市役所内の支援体制充実
 - ・収穫作業やワイン製造過程における繁忙期に、市職員がボランティアで作業協力を行う。
 - ・農地の幹旋や各種事業の情報提供、生産者の事業実施に必要な手続きへの助言など、各部署が庁内横断的に連携して支援を行う。
- 醸造用ぶどう生産人材の育成
 - ・大野農業高校との連携や道南ワインアカデミーへの参加促進により、醸造用ぶどうの生産に興味を持つ人材が増加するような研修を実施する。
- 市内農産物のワインへの活用
 - ・大野農業高校のぶどうやリンゴ等を活用したワインの開発を行う。
- 醸造用ぶどう生産ほ場の拡大
 - ・醸造用ぶどうの産地拡大を目指すため、生産に適した未利用農地を活用する。
- 収穫マニュアルの作成
 - ・生産者が収穫時に注意している事項をマニュアルとして整理し、収穫者の質向上を図る。

期待される効果

- 生産者と地域住民が協力して醸造用ぶどうの生産に取り組む文化が根付く。
- 醸造用ぶどうの生産量が拡大する。
- 次世代育成に取り組むことで、持続的な担い手確保を行う。

柱② ワインを通じた交流人口の拡大

A 観光振興

- 体験型観光商品の開発・販売
 - ・ぶどう畑を見学するサイクリングツアーなど、体験型観光商品の開発。
- 農泊施設を受け皿とする来訪者へのサービス充実
 - ・農泊施設利用者を対象に、各事業者が連携した「こと消費」サービスを提供する。
- トラピスト修道院や石別地区との連携・協働
 - ・ワインをきっかけに地域の歴史や文化にふれ、市民と交流する取組を実施する。
- ワイン用ぶどうオーナー制度の導入
 - ・醸造用ぶどう苗木のオーナーを有償で募集し、ぶどう栽培の体験旅行やワインの贈呈、地元料理の提供などのサービスが受けられる制度を構築する。

期待される効果

- 今ある資源を活用した観光商品の開発により、地域住民を巻き込んだ観光資源を確立する。
- 北斗産ワインのファン獲得により、北斗市への来訪者が増加する。

B イベント開催

- 道南ワインガーデンの継続・拡充
 - ・道南にゆかりのあるワインと食を提供するイベントを、道南の交通結節点である新函館北斗駅で開催する。
- 文月・向野地区でのワインイベントの開催
 - ・生産者が参加する、より深くワインに親しむイベント開催を検討する。

期待される効果

- 生産者を交えたイベントを開催することで、北斗産ワインのファンが増加する。

柱③ 地域経済への波及効果促進

A ワイン消費の促進

- ワイン関係事業者を対象とした勉強会の開催
 - ・ワイン販売店、飲食店などを対象に、ワインの適切な管理や、食との組み合わせ(ペアリング)を学ぶ機会を提供する。
- 市内で販売・提供が可能な北斗産ワインの確保
 - ・北斗産ワインの提供機会を増やすため、販売店・飲食店を増加させる。
- 市独自の認証店制度の創設
 - ・ワインが適切に管理・販売されている店舗が一目でわかるよう、市独自の認証店として登録する制度を構築する。

期待される効果

- 北斗産ワインを販売する店舗が増加する。
- 市内で消費される北斗産ワインの増加により、地域経済が活性化する。

B 関連商品の開発


- ワインを使用した新商品開発
 - ・北海道立工業技術センターの科学的知見を活用し、北斗産ワインを使用したスイーツなど、食品や土産物の開発支援を行う。
- ワインに合う食品の開発
 - ・ワインと合せて楽しめる食品の開発支援を行う。
- 残渣の活用
 - ・現在、家畜飼料や染料として活用されている残渣の新たな活用を検討する。

期待される効果

- 新たな特産品の開発により、ワインと合せた消費促進につながる。
- 残渣の更なる活用により、資源の再循環につながる。

C ふるさと納税への活用

- 北斗産ワインを返礼品として活用
 - ・北斗産ワインの他、関連商品と組み合わせた返礼品として登録する。
- ワイン用ぶどうオーナー制度を返礼品として活用
 - ・醸造用ぶどう苗木のオーナーを有償で募集し、ぶどう栽培の体験旅行やワインの贈呈、地元料理の提供などのサービスが受けられる制度を構築し、ふるさと納税の返礼品として登録する。



期待される効果

- ふるさと納税を通じ北斗産ワインとしての認知度が向上する。
- 寄附額の増加による、財源確保が充実する。